

2018年度GSK医学教育事業助成の概要

学会名

日本鼻科学会

正式名称

国際性を兼ね備えた鼻科学スペシャリストの養成プログラム（手術手技教育と基礎研究者育成）

医学教育事業の概要

臨床ハンズオン：職種とレベルに合わせてbasic course、advanced courseに分けての実技指導
基礎ハンズオン：研究者をめざす若手会員を対象とした研究活動推進のための国際的レベルの修得
国際学会トレーニングコース：国際学会での英語での発表ならびに討論に関するトレーニングの実施

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師、薬剤師、看護師
対象となる医療関係者の想定人数：1,000人

医学教育事業の必要性 / 目的

鼻科領域は解剖が複雑で手術手技の習熟には、国内外の鼻科手術のスペシャリストの直接の指導に基づいた長期に亘る鍛錬、豊富な経験症例の蓄積、手術支援に関わるコメディカルの手術手技の理解と協力が必須である。また、若手医師の研究の推進を図るために研究手法や実験手技に習熟するためのオールジャパン体制のプログラムの構築も必要である。さらに国際学会での英語での発表や討論・欧文論文に関するトレーニングも喫緊の課題である。国際標準レベルでの手術手技の獲得のための教育と国際舞台で活躍できる鼻科学研究者を育成し、日本国民に高度で安全な医療を提供できる体制の構築をめざすことが本事業の目的である。

医学教育事業の計画・方法等

年1回、日本鼻科学会が主催する学術講演会の開催時に本事業を実施する。臨床ハンズオンでは手術用精密立体模型、内視鏡および手術支援機器を用いて参加者の職種とレベルに合わせて行う。Basic courseでは、病態の解説、適応、術式に関する講義および手術ビデオを題材に外国人講師を交えた討論会を実施する。上級者向けのadvanced courseではCT画像による術前評価のコツと落とし穴、手術の実際と副損傷の回避のポイントと出血等への具体的な対処方法について教育する。新しく開発された手術方法や頭蓋底へ進展した腫瘍性病変への内視鏡的アプローチ法は、諸外国に比して国内での臨床例が乏しく、国内で修練することの困難な領域である。そのため、国内講師だけでなく熟達した外国人講師が手術の適応と具体的な方法、可能性のある合併症とその対応を含めて必要な手技をマンツーマンで指導する。基礎ハンズオンでは、国際的レベルでの研究の立案方法や研究費獲得のための手段の講習で、分子生物学的手法（western blot, RT-PCR, in situ hybridization）、免疫組織化学的手法の基本的な理論と実際の手技を参加型実習の形で実際に取り組みさせる。国際学会トレーニングコースでは英語での発表と討論のトレーニングに関して外国人講師を教育スタッフとして迎え具体的な事例を基に臨場感のあるロールプレー形式で行う。さらに欧文論文の作成についてのトレーニングを具体的な事例を参照し、講師と討論形式で行い研究結果の世界に向けた発信をサポートする体制を構築する。

医学教育事業の効果の測定方法

事業終了直後と一定期間経過した後に参加者と指導者にアンケート調査を行い満足度と個別意見を聴取する。臨床ハンズオン参加者には3年間の手術数やその成果を、基礎ハンズオンと国際化トレーニングの参加者には国内外の学会での口演発表、ポスター発表、論文掲載について実績を報告してもらう。各年毎に日本鼻科学会総会・学術講演会でその内容を一般演題として会員各位に報告すると同時に、事業内容を日本鼻科学会ホームページで公開する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

臨床ハンズオン、基礎ハンズオン、国際化トレーニングに関する教育事業は、実施状況と成果を本学会ホームページで一般公開すると共に、J-stageで広く公開される日本鼻科学会会誌にその内容とアンケート調査結果を論文として掲載することで、他領域の医師や医療関係者に周知する。基礎ハンズオンで作成する鼻科学基礎研究プロトコル集はホームページで公開すると共に、非会員からの要望があれば無償で提供する。